行灯づくりワークショップ

対象ェリア	鯖江市吉江地区
日 時	平成24年9月15日 (土) 9:00~11:30
開催場所	鯖江市立 立待公民館
対象者(人数)	吉江地区の親子 参加者43名
設置日時	平成24年9月29日 (土) 17:00~20:00
主催	福井県
協力	鯖江市、鯖江市教育委員会、立待公民館
ねらい	昔ながらのまち並みが残る鯖江市吉江地区の七曲り通りの風情を演出するために、吉江地区に幼少期に過ごした近松門左衛門にちなんだ行灯を住民自らが考え製作し、地元のまち並みや住まいに対する誇りと愛着を育んでもらう。「立待月観月の夕べ」に行灯を設置することで、製作者はもちろん、ワークショップに参加しなかった住民にも、まち並みに関心を持ってもらう。
プログラム	 行灯のフレームを組み立てる 和紙に絵の具で「吉江地区」にちなんだ文字や絵を描く 吉江地区にちなんだキャッチフレーズや歌などを書き、文字だけではにぎやかさがないため吉江地区にちなんだ絵も描く。 行灯を設置する 「立待月観月の夕べ」の時に行灯を設置する。(プログラム1,2とは別日)
準 備 物	 (行灯材料】 ・木材(事前にカットし、釘打ち箇所にドリルで穴あけする) 300mm×12mm×12mm 行灯1基あたり4本 150mm×12mm×12mm 行灯1基あたり10本 ・釘(行灯1基あたり20本) ・和紙(行灯1張あたり260mm×700mm) 【水ロウソク材料】 ・両面テープ(ロウソク容器を固定するための物) ・ロウソク容器 ・牛乳パック等 ・麻紐 ・廃油 ・水 【製作のための道具】 ・木工用ボンド ・かなづち ・はさみ、カッターナイフ ・絵の具セット、習字セット



最初に行灯を製作する意味 や、製作上の注意事項につい て、参加者に伝えた。



最初に行灯のフレームづくりを行った。釘を打つことが初めての子どもでも、サポートしてあげることで製作できた。



フレームが完成したら、和 紙に文字や絵を描いた。吉江 地区は近松門左衛門が幼少期 に育った地区であるため、近 松門左衛門の肖像画や、ゆる キャラ「ちかもんくん」を描 いたりして、元禄時代に思い を馳せて行灯を製作した。



全部で42基の行灯が完成したので、全員で記念撮影をした。

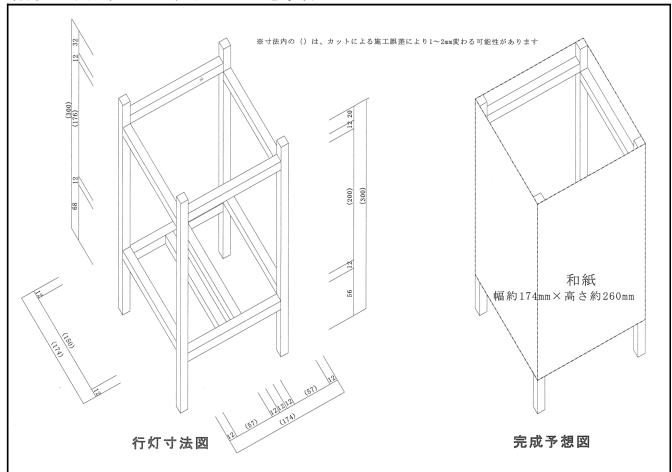


絵の具だけでなく、写真のように切り絵で行灯を製作した人もいた。切り絵は、明暗がはっきりする点が面白い。



江戸末期から明治、大正期の雰囲気を残した建物が集中して現存している七曲り通り沿いに行灯を設置した。通り を歩いた人からは「行灯でいきされたまち並みが趣深く、改めてここのまち並みの素 らしさを知った」と感想をいただいた。

行灯の寸法や組み立てする上での注意事項



※注意事項等

それぞれの木材は釘を打ってとめる。木工用ボンドも併用するといい。 直行する横材同士を釘打ちする際に干渉しないように、横材は段違いになっている。 和紙に絵を描く前に、フレームに巻きつけて折り目を付け一面の大きさを確認する。 横材を真ん中に2本つけてある部分にロウソクを置く。

水ロウソクの作り方



水ロウソク

- ① 牛乳パックを透明な容器に入るぐらいの 大きさに切る。
- ② 切った牛乳パックの真ん中に穴をあけ、 麻紐 (3~4cm) を通す。
- ③ 透明な容器に水を3/4ほど入れる。
- ④ 油を入れる。
- ⑤②で作った芯を浮かべる。
- ※ 牛乳パックの大きさや穴の開け方によって沈んで火が消えてしまうことがあるため、芯をいくつか作っておくといい。

